

朋友だより

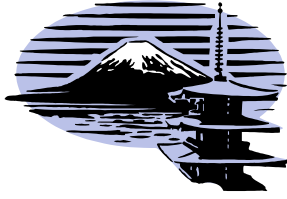
2011年、最初の朋友だよりをお届けします。

今回のテーマ「持続可能な社会をめざす」は、昨年8月度のテーマと類似していますが、是非この問題について考えたいと思い、このテーマとしました。

なお、この度弊社のホームページを全面改訂しましたので、是非、扉を開いてみて下さい。

2011年2月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



持続可能な社会をめざす - 中小企業の役割 -



われわれはどこに向かうべきか

中小企業憲章が閣議決定されてから、半年経過しました。この間、景気はひとことと比べると若干改善されていますが、将来の不透明感、先行きの不安感は相変わらずです。政治の方も混迷の度を深めています。一昨年夏の総選挙で国民の大きな期待を背負って政権交代したのですが、その後の一年半の動きは、目を覆いたくなるほど無残です。

この様な混迷する社会の中で、私達中小企業経営者は何を目標として経営を進めればよいのでしょうか。

時代が転換期にあることを意識して、持続可能な社会を目指すべきと考えます。内需を拡大し、地域経済を活性化し、日本社会を持続可能な社会にしていく、そこに中小企業経営者として努力を傾けたいものです。そして、それぞれの企業がその中でなくてはならない役割を担うことが求められます。

個々の企業が自社の得意分野で個性を發揮し、それぞれがなくてはならない役割を担うことになれば、そこで働く社員の一人ひとりが生き生きと働くことになるでしょう。

その場合のキーワードは「共生」です。自分だけ良ければ良いというのではなく、他者と共生し、相手と自分の双方にとって良いやり方を模索する道です。他者の存在を認め、他者との関係の中で自分を磨いていく、そしてその中で自己の存在を主張するという生き方です。

それぞれの地域には、地域固有の歴史、文化、生活があります。そこに依拠して中小企業としての仕事をしたいものです。中小企業は地域を離れて存在できません。地域に根を下ろし、そこに住む人、そこで働く人、そこを訪れる人に対し、豊かな商品・サービスを提供することを通して、地域社会の賑わいを取り戻すのです。

地域社会と中小企業との関係を次のように考えるのが良いでしょう。

・豊かで個性的な生活文化を育てる地域社会
・それを経済的に支える本物志向の中小企業
ここにこそ、日本経済再生のカギがあると考えられています。

本物志向の中小企業の社員たち

先日、奈良県中小企業家同友会の経営者の方々と経営理念の勉強会をしていたとき、次のようなことを経験しました。

運送会社の女性経営者が発言しました。彼女の会社の新入りドライバーがお客さんの荷物を運搬するとき、咄嗟のことで、急ブレーキをかけたそうです。幸い荷崩れが生じなかったため、彼はそのまま荷物を送り先に届けます。ところが送り先からクレームがきました。荷物の中味がずれて、片側に寄っていたとのことでした。

これを社内で話したところ、ベテラン運転手はその新入りドライバーに言ったそうです。「お客様の大切な荷物を運ぶ運転手にとって急ブレーキは厳禁である。急ブレーキを避けるのがドライバーの腕だ。万一、急ブレーキをかけた場合は、荷物を念入りに点検し、荷崩れだけでなく、中味までチェックして片側によっていないかを調べるべきだ」。

以上の話を聞いていた介護施設を営んでいる女性経営者が発言しました。「今のドライバーの話は自分達の介護の仕事にとって、大変参考になる。介護施設のスタッフ達は、利用者の人達が何かに躓いて転倒しないよう、転倒防止に細心の注意を払っている。是非、自社のスタッフ達とドライバーの人達との話し合いの場を持ちたい」。

このやりとりを横で聞いていた小生は、中小企業で働く社員の人達の本物を追求する姿勢に心を打たれました。

プロとしての誇りを持って、お客さんが喜んでくれる良いサービス、本物のサービスを提供しようと頑張っています。この本物を追求する姿勢があるから、大型車のドライバーと介護施設のスタッフという普段全く縁のない業種の人達の対話が可能となるのです。持続可能な社会の担い手としての中小企業の面目躍如といえるでしょう。

持続可能な社会の観点から TPP問題を考える

現在、TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)問題が賛否双方の立場から議論されています。この問題を持続可能な社会の観点から考えてみます。

2つの側面が問題となります。一つは食料問題であり、今一つがアジア諸国との共生です。

まずは食料問題です。

農水省の資料からも関税なきTPPが締結されると、アメリカ、オーストラリアといった食料輸出大国からの農産物が大量に輸入され、日本の農業は壊滅的な影響を受けることは明らかです。これは同時に地域経済全体を衰退に追い込みます。これで良いのでしょうか。

日本の食料自給率を上げることが、国民的課題となっているとき、農業生産の条件を最大限に広げること考えるのが政府の仕事です。それを逆にその可能性をつぶすことはとんでもないことです。

世界的に食料不足が叫ばれはじめている現在、それぞれの国が自己の条件を生かして、食料生産に努力するのが、同じ地球という惑星に生存する各国民の努めと考えます。世界では今、自国の食料は極力自国で生産するという食料主権の確立を求める流れが広がっています。

昨今の世界的な穀物相場の高騰は、食料をお金で買える時代は過去のものになりつつあることを示しています。食料自給率の向上は待ったなしの課題です。

前原外相は、「GDP比 1.5%の農業のために

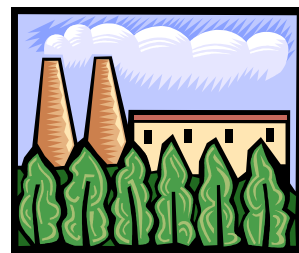
98.5%が犠牲になる」と発言しましたが、日本農業の重要性は経済性だけで評価出来ません。農業や林業が存続しているから、国土の保全や環境・景観が維持されているのです。日本の農業・林業が成り立たなくなり、就業者がなくなれば、国土の荒廃が急速に進むことは目に見えています。日本農業は何としても存続させることが必要です。従ってこの面からTPPは認めわけにいけません。

今一つはアジア諸国との共生という側面です。日本の貿易構造は、この10年間でアジア諸国の比重が大きくなり、アジア諸国との連携がますます重要となっています。もともと日本はアジアの一員ですし、歴史的にもアジアとの関わりが深い国です。今回のTPPは日本にとって、アジア諸国との連携強化に大した効果をもたらさないという点があげられます。

TPP参加国の中に中国や韓国が入っていません。それだけでなく、ASEAN諸国のなかでも主要国といわれるタイ、インドネシアがTPPに批判的と報じられています。アジアの多くの国がTPPに批判的なのは関税ゼロへの不安とアメリカへの警戒感があるといわれています。

中国はいまや、日本のビジネス・パートナーとして重要な国となっています。中国をはじめ、アジア諸国との連携を真剣に考えることが大切な時に、アジアの主要国が振り向いていないTPPに参加する理由はないと言えるでしょう。

持続可能な社会をつくるという観点から考えた場合、TPPへの参加は避けるべきでしょう。



株式会社 日鉄不動産

(東京都新宿区：代表取締役 高林節子 氏)

東京新宿区高田馬場で、不動産売買、賃貸仲介及び管理等を営む創業51年の老舗企業です。現社長はお父さんの現会長より一昨年社長を引き継いだ新進の女性経営者です。

お父さんは50年間、高田馬場で不動産業一途でこられた方です。25年前、それまで勤務していた会社から独立して、自分の事務所を開設しようとしていたその日に、日鉄不動産の先代経営者(女性)に高田馬場のまちで、ばったり出会います。後継者がおらず、会社の将来を気にしていた先代に一瞬ひらめくものがありました。「そうだ!あなたに経営を譲る!」と言われて、経営を任されたという謂われを持ちます。

以来25年間、誠実に業務を行い、地元から厚い信用を得ています。「お天道様に恥じない生き方をする」が信条です。これは最近成文化された同社の経営理念に反映されています。

急速に都市化が進む新宿区の中であって、高田馬場は早稲田大学をはじめ、学生が多いまちで知られています。地の利が良いこと、ちょっと入ると公園など生活の場があること、地元の大家さんとの深いつながりがあることなどが高田馬場で営業する同社の強みです。

最近確立した経営理念をもとにして、朝の5分間のミーティングも軌道に乗りだしました。新社長のリードのもと、同社の新しい発展が期待されます。

経営理念

私たちはお天道様に恥じない心で業務にあたり、不動産を通してお客様の安心と信頼のパートナーになります。

私たちは常に感謝の気持ちを持ち、共に高め合い、共に幸せになる会社を目指します。

お問い合わせ： 株式会社 日鉄不動産
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-5-4

TEL.03-3368-8336 FAX.03-3371-6862

[URL:http://www.nittetsu-f.com](http://www.nittetsu-f.com)

* ~ あとがき ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ *

朋友だより108号をお届けいたします。

2/11の毎日新聞に“就活漂流”と題して某私立大4年の大学生が3年生の夏からエントリーシートを出し続け、選考に進めなかったところを含め「269社を受けて、ようやく1月に内定をもらった」という記事が掲載されていました。超氷河期と言われる時代であるにしても人生の節目での厳しすぎる現実に心が痛みました。従業員40人の中小企業だとのことですが、「一人ひとり社員をじっくり見てくれるはず」と前向きであり、両親とビールで祝ったと伝えていました。きっとこの経験が今後の人生の糧になることと思います。仲間として期待したいです。さざんかの花言葉「困難に打ち勝つ」「ひたむきさ」と言われています。(野上)



朋友 有限会社 コンサルタント朋友

〒113-0034 東京都文京区湯島3-23-8第六川田ビル201号

TEL.03-3833-6025(代) FAX.03-3833-6035.

[URL:http://www.consultant-hoyu.co.jp](http://www.consultant-hoyu.co.jp)